

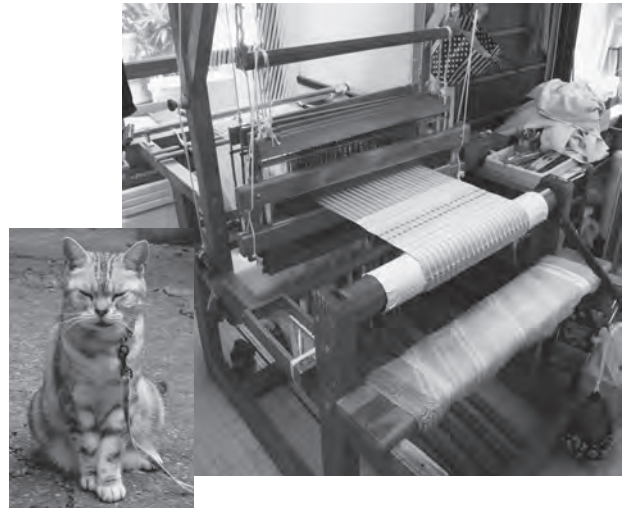
マイセルフ

自分らしく

特集

続けることで開ける道

～母娘がつなぐ伝統の技～



私たちが見つけた品川区の

Vol. 9

池田山公園

ちよつといい所
素敵なおところ♪



旧岡山池田藩下屋敷跡。高低差を生かした池泉回遊式で、緑に囲まれ、パワースポットとしても有名です。四季折々の花が美しい、落ち着いた雰囲気のある公園内にはベンチがあり、くつろぐことができます。

2016 Aug.



● 続けることで開ける道～母娘がつなぐ伝統の技～ 2～5 P

● 男女共同参画センターからのお知らせ

6～8 P

VOL. 52

特集

続けることで 開ける道



～母娘がつなぐ伝統の技～

草木染め染織家、50年目の藤山千春さん、10年目の優子さんにお話を伺いました。

どのようなきっかけで現在のお仕事を
することになったのですか？

千春さん 私は本州の生まれですが、母方の里が八丈島で、黄八丈つという黄色い地に茶と黒の格子のある織物が昔から織られています。私が小さいとき遊びに行くところ、ここで機を織っていたり、草木染をしたりするのを目の当たりにしました。そのことが頭に残っていたんでしょうね。子供の頃から工作するのが大好きでした。母に「織物ができる染色工芸科があるから、女子美術大学の附属高校に行ってみたら」と言われて、そこで勉強することになったのが織物の始まりです。ですから、織物を始めたきっかけは、もともと母方の里の八丈島で小さい頃から、黄八丈という織物を身近に見て育ったということが一番のことではないかなと思います。

優子さん 私は大学の経済学部を出た後はOLをしていました。サラリーマンの生活に憧れがあったんです。いっぱい人がいる環境で仕事をしたというのは良かったんじゃないかなと思います。最初に就職するときは、何年後かに継ぐということは考えていなかったです。母の仕事を知っている小売店の同級生に「ぜひ跡を継いだほうがいい」と言われ、母にも跡を継いでほ



千春さん

しいと言われたんです。身近だったので初めはあんまり魅力を感じなかったんですけど、始めてみたら奥深くって、毎日楽しくやっています。

お休みはとれますか

優子さん 休みはとりづらいので、平日休ませてもらうこともあります。先週は銀座で4日間催事でそのまま新幹線に乗って、次の日から3日間京都で、まる1週間ずっと働きつめました。出張に行く前も工房の仕事があるので、3週間くらい休みがないというところもありますね。工房での仕事は何時まで、という決まりはないです。機織りは柄が区切りのいいところまでやらないと、線が残ってしまったりするんです。染色も外が暗くなっても作業をすることもありません。雨が降ると傘をさして作業をすることもありません。工房全体の工程があるため、

職人全員の作業日程がスムーズに流れるようにしていかねばなりませんので、やっぱり仕事がメインになってしまいます。仕事の日程の間を見ても、空いている時間に自分の生活のことは持つてきますね。

達成感を得られるのはどのタイミングですか

千春さん 催事場に来たお客さまに「すごく素敵ね」「気に入ったわ」と言われたり、並んでいるうちの商品が全部売れちゃったり、苦労して作ったものが皆さんに喜ばれてよかったって思いますね。

催事場に行くと、お客さまが「こうした



優子さん

草木染織の作業工程 —— 大まかな流れ ——

- 1 必要な色が出る木の実や草の実など、植物を煮出す。(4、5回繰り返し同じ染料を煮出すことも)
- 2 煮出したものをひとつにまとめて、大きな鍋で染液40度くらいに温め、白い糸(帯13本分の糸で35かせ)に煮つける。
- 3 一晩おいて媒染する。ここまでが染色
- 4 のりつけ…ふのりを溶かしてできたのりをつけ、糸の強度をあげる。
- 5 はたいて巻きやすい状態にする。
- 6 糸巻き…電動糸巻き機で巻く。帯13本分で経糸約70メートルが必要となる。
- 7 整経…経糸の必要な本数、長さ、張力などをそろえる。
- 8 綜統(そうこう)通し…(経糸のセット)
- 9 おさ通し…くし状の枠に900本以上の糸を一本いっばん糸を通していく。(間違えたらやり直し)帯の幅になる。
- 10 織りつけ…糸の束を機の手前にあるちきりに全部結びつけてセットする。ここまでで2~3週間
- 11 機織り…すべて手作業で機を織る。デザインは千春さんと優子さんが決める。職人やデザイン、帯か着物かによって機織りの期間はまちまち。最短で1週間くらい。



取材風景

この仕事をしていて日常生活で困った りすることがありますか

優子さん 手袋をしようとどうしても糸が扱
いにくくなってしまっているので、素手での作
業が多いです。だから手に染料がついて
落ちないときに、そのまま買物に行っ
て、ぎよつとされた経験があります。なん
となく手を隠したりしてしまいます。藍色
はもうほとんど落ちないですね。あとは冬
場は手がひび割れるので、私はいつも10個

ら自分のお着物に合うんじゃないか」とか、
いろんなお話をされているのを耳にするの
ね。私たちは作家だから作りたいものを作
るといっことは当たり前なんです。でも、と
もかく商品を人に喜んでもらって、着ても
らえないとこの仕事を続けられないじゃな
いですか。だから工房で仕事するばかり
じゃなくて、世の中を見てって大事かなっ
て。

仕事と家庭生活のバランスはどうして いますか

ぐらい絆創膏をつけています。だからハン
ドクリームなんかをまめにつけるんですが、
つけすぎると今度は糸についてしまいます。
手は大変かもしれない。

千春さん 子供が生まれてすぐは乳母車で
あちこち出かけていたんですけど、子守
だけでは満足感がありませんでした。私が
機を織りたかったから、機の隣に子供を寝
かしてね、泣くとすぐ機からおりてあやし
ていたんだけど大変でした。それで機を織
るときにおぶることにしたんですけど、最
初はおぶられて、嫌だから泣く、でも私は
降ろさないから、そのまま機を織るのがあ
たり前になっちゃって、子供も慣れておぶ
りながらも仕事ができるようになってい
優子さん さすがにそのことは覚えていな
いんですけど。誰が機を織っているのか、

リズムでわかるんですね。母ほどの人のリ
ズムがいいかというのがわかるんですけれ
ども、私のリズムはかなりいいって言っ
てくれるのは、もしかしたら子供の時からそ
のリズムを聞いて育ったからじゃないか
なって思います。
千春さん 私も毎日仕事ばかりしているか
ら、子供二人を連れてシャベルとお弁当を
もってピクニック代わりに八王子あたりに
アカネ掘りに行ったんです。アカネの根を
染色に使うんです。畑の脇にアカネがたく
さん生えているから、アカネを掘っている
間、子供たちがミミズを掘ったり花を摘ん
だりして遊んでいたんです。そうやって月
に一回ぐらいは子供たちを遊ばせて、大人
はアカネ掘りということもやりました。
優子さん 近所の幼馴染と、その家族みん
なでアカネ掘りに行ってました。もうほ
んど私たちは遊んでるつもりで、その間
お母さんは職人さんたちと掘ってました。
楽しい思い出ですね。

地域との関わりはありますか

優子さん 依頼があれば小学校に行って、
機織りや染色体験をしてもらったりします。
子供たちはあまり見たことがないから、面
白いようです。

千春さん 私自身、小さいときに機織りを
見たことがきっかけで、こういう仕事に就
いたじゃないですか。ですから、なんでも
目の前で見て経験して、観察するっていう
ことは子供たちにとって大事なかな。
あとは、区の伝統工芸保存会でいろんな職
人さんたちと会うことで、色々な職業の工
程や考え方を学ぶいい機会を得ることが出



糸はたきの作業をしている所



藍甕

来て凄いありがたいの。

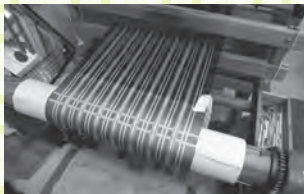
伝統工芸保存会に入って色々なイベントに参加したり呼ばれたりすることによって、実際多くの人たちに理解してもらおう、知ってもらおうことができます。日本には、和装の文化、茶道とか、着物を着て出かけるとかいろいろ機会があるんですけどね。こうやって、いつまでも伝統文化として繋がっていかないと、私たちの仕事はいくらやっただって、使われないわけです。あと私たちが実際に織ってる姿を見てもらう。そうすると織ったものを紹介出来るようなところへ出かけることがひとつのまた仕事の上で大事なことだと思ってます。

後継者についてはどうお考えですか

千春さん 先の者は次の者を育てなくちゃいけないんですけど、本人が始めて一生懸命になれば、その面白みがわかって、自分を奮い立たせるものというのが得られてくると思うんですよ。だから、後継者を育てるといことは、基本の技術を教えるのであって、その先はその本人が、その技術を得たことによって、色々な楽しみみから自分が続けたいという気持ちをもんな持つてくるんじゃないかと思うんです。途中で辞めちゃう方もそりゃいっぱいいますけれど、特に私たちは親子なので、親の仕事を大事に思うって気持ちもあると思いますけど、本人がその仕事に関わったことから、ひとつひとつ楽しみを見出して、自分自身が後継

千春さん・優子さんが織る吉野間道とは？

吉野の名前は、江戸時代の二代目吉野大夫が好んで着ていたことに由来し、間道とは経緯・緯緯・格子が地厚な浮織です。この浮織を作るために特殊な機を使用します。



していく気持ちを育てていくんじゃないかなと思います。決して後継者を育てようという気持ちはありません。実際余裕がないこともあるし、そんなに自分が、立派な仕事をしているとは思ってません。たまたま続いちゃった仕事をしているっていうだけですね。それが本人にとって凄く一生良かったって思うかどうか、今見ても、

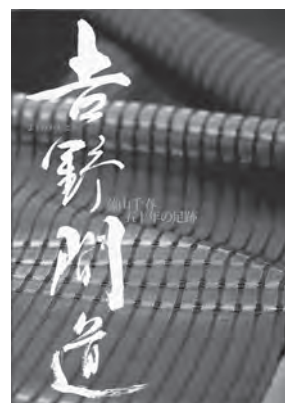
あ、楽しみを見出してるな、十年前とは違うな、良かったなという風には思っています。ですけどそれは私が育てたのではなくて本人が、ここで働くことによって、少しずつ自分で楽しみを見つけたことなんじゃないかなって思っています。

優子さん 毎日やっている仕事なので、毎日どんどん自分で変化させていかなきゃいけない。柄もそうですし、染織もそうですし、藍染めの甕の調子もより長持ちさせる。そういうことをやっていくことで、自然と伝統を引き継いでいってるのかな、とは思っています。伝統に新しいものをミックスすることによってより進化させていく、ということが面白いと思います。比較的自由に仕事をしています。

これからの目標はありますか

優子さん 母の50年分の作品集があるんですけど、私も沢山作品を作って、こういう本が出せるようになることが目標です。

千春さん 娘が私をはるかに超えて綺麗な



千春さんの50周年作品集

作品を作ってくれるのを見たいですね。あと30年か40年続けたら凄いことになると思うんですよ。是非そう長いこと続けて、自分の思い以上の、色々な経験をしてもらいたいなとは思っています。私が死んだ後でもその先もずっと私が出来なかつたことを出来るという夢があったら、なんか、生きていた間の満足感っていうのを、思いながら死ねると思うんですよ。これからは凄く楽しみです。



取材風景

これから社会に出て色々働く方々に一言お願いします

千春さん 私がこの50年続けられたことで、色々な面でいい経験が出来たんです。最初この仕事を始めた頃は、自分に自信なんか全然ないし、いいものは出来るかもわからないし、才能なんてないです。不安でしょうがなかつたんですよ。10年、20年やっていても、手作業と、経験だけでやるからとんでもない間違いが出てきちゃうんです。あるとき柄を間違えたけれど、それで織りつけてみたら、もうびっくりするほど面白かつたんです。それからそこに合わせて全部柄を作り直したのが、後のヒット商品なんですよね。そんなこと思うと、50年やってきて、10年くらいで自分は才能がないなあ、自信がないなあと思って辞めてしまったら、その後、失敗から得る経験で成功する経験を味わえないで終わっちゃうわけじゃないですか。だから、きつとどんな仕事も、長く続けられるっていうことは、色々な経験を重ねて、新しいものに出会うという、自分を作り出すことだと思っんですよ。お勤めであろうと、家庭で主婦になろうと、色々なことがあると思うんですけれど、長いこと自分の志を大事にし続けていくことが、一番自分にとって成長出来ることだと思うんですよ。ですから私が経験したことでは、長い間続けたこ

とが一番自分にとって良かったことかなと思います。これから、幸せなことも大変なことでもいい出てくると思っんですけど、その時は非諦めずに、越えて、自分を少しずつ育てていくようにして下さいね。

優子さん なんでもみんなきちつと丁寧に、目の前にあることを一生懸命やって、色々失敗も出てきたりするかもしれないんですけど、それも全て損になるようなことではないんですよ。失敗してしまったことが、後々考えたら、あれをやっておいて良かったなとか、知らないことをやって良かったなとか、自分の得になるようなことでもいいあります。へこまずに、真つすぐ日々色々なことを経験して生きてくということが凄く大事だなと思っんですので、ぜひ頑張ってください。



取材終了後、お二人と

編集後記

何かを始めたら、続けていくことによって自分で楽しさを見出すことができるのだと、教えていただきました。また、後輩へ引継ぐ立場として私が教えられるのは基本的なことだけで、あとはどんな経験してもらおうと思っんです。

今回お話を伺いして、染織というのはとても根気のいる作業だと知りました。それだけ丁寧かつ繊細に時間をかけて作られた吉野間道はどこか温かみがあり、見とれてしまうほどでした。様々な染料や写真を見せて頂き、目でも耳でも楽しい取材となりました。

今回は伝統的な染物職人さんに取材させていただくということで、緊張しておりました。想像以上に、とても色彩豊かな織物が作り上げられるということ、そして長い時間と工程と技術を経て織物が作られるということを知ることができました。

日本の伝統文化を継承する方にお話をお聞きするということで初めは渋くてお堅いというイメージがありました。取材を進めていくにつれてイメージは一変し、色数の多さや現代文化との融合など圧倒されることばかりでとても勉強になることが多かつたです。

今回初めてマイセルフの編集作業に携わりました。取材は緊張しましたが、藍染めについてくわしく知ることができました。取材後の音声起こしと編集は大変でしたが、他の編集

委員に助けてもらいながら、作ることもでき、とても貴重な経験になりました。

今回初めて取材をさせて頂いたのですが、どれも初めて目にするものばかりで新鮮でした。ひとつの作品に沢山の時間がかけられて制作されていたり、それをつくりあげるための工夫がなされていたりと、また社会に出ていく上で大切なことを学ばせて頂きました。普段では滅多に体験出来ない伝統文化に、生で触れられて良かったです。

私は今回の取材には参加できなかったのですが、編集作業の際に取材音源を聞きました。とても楽しそうな雰囲気伝わってきて、私も行きたくた...と後悔しました。次回は取材も編集作業も全力で取り組みたいと思っんです。

今回の取材の中で、機を織る音で誰が作業をしているのかが分かる、という言葉がとても印象的でした。織る人それぞれのリズムがあり、このリズムに乗せて一本一本丁寧に織られていくのだと思っんです。



(渡辺理沙)

🌸 行動計画推進会議だより 🌸

■ 第15期行動計画推進会議報告書

平成28年3月29日に行動計画推進会議が開催され「男女共同参画のための品川区行動計画（第4次）」の推進に向けて、平成26年6月から調査・検討を重ねてきた「第15期行動計画推進会議報告書」が区長へ手渡されました。第15期の諮問事項は「各ライフステージにおける女性の活力を生かした地域・社会参画の促進について」で、様々な場面で、区民としてできること、区への提言の他、地域社会への一歩を踏み出すヒントをまとめた「地域・社会参画ナビ」が示されました。



■ 第16期行動計画推進会議がスタート

品川区は、平成21年10月に「男女共同参画のための品川区行動計画（第4次）」を策定しました。この計画の充実を図るため2年ごとに、品川区行動計画推進会議が設置されます。6月1日にこの計画の第4期目となる行動計画推進会議の委嘱式が行われ「第16期行動計画推進会議」が設置されました。委嘱式では、桑村副区長より市川美知会長へ諮問が手渡され、その後、第1回行動計画推進会議が開催されました。会議は学識経験委員3名、一般公募委員9名の計12名で構成され、平成30年3月に報告書が提出されることとなります。



※第15期の報告および第16期の議事録は品川区のホームページより閲覧できます。

🌸 講座報告 🌸

■ 男女共同参画推進講座（2月16・23日・3月1日（全3回） 参加者延45名）

『よりよい人間関係を結ぶためのコミュニケーション術（初級）』

講師 小柳 茂子氏（相模女子大学教授・臨床心理士）

コミュニケーションは自分と相手の言葉などによるキャッチボールが基本です。アサーティブ（自己表現）な表現とは、自分の気持ちを率直に表現し、さらに相手の気持ちを大切に、自分も他者も尊重するコミュニケーションの方法として、社会的（対人関係）スキルとして評価され、企業研修でも用いられています。それぞれご自分の性格もありますので、現在プラス「何か」でよりよい表現になるということ、持ち寄った事例で実際にロールプレイを行い経験してみました。

「家族や周りの人との関係が変わりそうです。自信を持って積極的に生きられるようになりそうです。」「アサーティブ、初めて聞いた言葉ですが人と接する時に大事だと学びました。感情的になって言いたくなる時にブレーキを踏んで、落ち付いて接することを勉強、経験して行きます。」など参加してよかったとの感想を多くいただきました。



■ ワーク・ライフ・バランス講座（3月10・17日（全2回） 参加者延43名）

『声磨きで「自分」磨き』

講師 結木 利奈氏（㈱インビジブルビジョンズ代表）

一日目は「声を磨けば自分（未来）が輝く」自分（未来）を輝かせるためのコミュニケーションの大切さ、声の役目・効果、声を磨くためのヴォイストレーニング、表現力をつけるための姿勢、呼吸、発生方法、ソの音を心がけ元気に会話すること。幸せを呼ぶ「声」の法則、心に届く挨拶トレーニングなどを学びました。

二日目は、「こころをハッピーにする8つの方法」人との関わりの中で、毎日をきらめかせるための「私」のTA傾向を知るため、「エゴグラム」を使い自分自身の自我状態を知り、自己理解深めることを学びました。

全2回の講座で、受講生からは、「大変楽しく勉強させていただきました。発声・滑舌・コミュニケーション、毎日心をそこに向けて練習し、心の持ち方も常に練習して、よりよい日常を送れるよう致したいと思います。」「これからの人生において、更に前向きに生きていけそうです。」「心の中に負のエネルギーを持ち続けたい。自分の心にゴミ箱を持ちましょう！ぜひ実践してみます。」など沢山の感想をいただきました。



■ デートDV講座（6月6日 昭和大学医学部附属看護専門学校1年生 参加者157名）

講師 河西 ひとみ氏（NPO法人女性ネットSaya-Saya）

結婚していない恋人たち間で起こる暴力、特に若い世代で親密な関係にあるあいてからの暴力を「デートDV」と言います。暴力は、身体的な暴力だけでなく、精神的・経済的・性的暴力等も含まれること、またDV被害者は婚姻前から暴力を振るわれている場合が多く、デートDVの延長上にDVがあるとされています。自分を大切にしたい気持ち、それと同じように相手を大切にしたい気持ちを持ち、自分も相手も大切にしたい関係を築くことを学びました。また、相談された時の受け止め方なども学びました。



■ おやこ応急手当講座 (6月11日 参加者20名 会場：品川第一区民集会所)

講師 品川消防署員・救急資格者

子どもの事故の予防には、まず、不慮の事故の発生状況を知り、どう対応するかを知るための講座です。家庭内で、箸や歯ブラシをくわえたままでの転倒、ボタン電池・化粧品・洗剤等の誤飲、お風呂・トイレ・ビニールプールでおぼれる等の発生状況を知り、起こさないための対処方法を教えてもらいました。実技として、心肺蘇生、AEDの実践練習を大人・子ども・幼児の人形を使い練習し、必要性を学びました。最後に品川消防署を見学させてもらい、はしご車などをまじかに見て子ども達は、歓声をあげていました。



■ ママのおしゃべりCafe (5月31日・6月7・14・21日 (全4回) 参加者延9名)

講師 別府 明子氏 (心理カウンセラー)

子育て中のママが「悩み」や「してみたいこと」をカフェ形式でおしゃべりしました。「コラージュ」では、雑誌やチラシなどから好きな写真や絵を切り貼りして、自由な発想から作品を作り、作業を楽しみながら、現在の気持ち、将来の希望といった自分の内面を知ることができました。

また、エゴグラムでの分析の他、子ども時代のこと、友人関係、親子関係などを話してみることで、自分の性格や人間関係を客観的に見ることができたり、肯定できたりしました。

参加者からは「話したかったことをたくさん話せた。」「本音でいろいろ話せて新鮮だった。」「ゆっくり考える時間が過ぎてリフレッシュになった。」「コラージュは作業が楽しかったし、作品で自己分析できるのがおもしろい。」「自分と向き合えて楽しかった。」などの感想が寄せられました。



講座のお知らせ

- 会場** 品川区立総合区民会館さゆりあん (品川区東大井5-18-1)
問合せ先 男女共同参画センター 電話 5479-4104 FAX 5479-4111
定員 25名 託児あり (定員に達している場合もありますのでご了承ください。)

※以下の内容は原稿作成時のものです。最新の情報は広報しながわおよび品川区HPでご確認ください。

開催日	内容	募集掲載予定 広報しながわ
9月1・8日 ㊦ 午後6時30分～8時30分	ワーク・ライフ・バランス講座 キラリ生活のためのこころ磨き (2日制) 講師 結木 利奈氏	8月1日号
10月6・13日 ㊦ 午後6時30分～8時30分	男女共同参画推進講座 「傾聴講座 (初級) (2日制) 講師 別府 明子氏	9月1日号
10月11・18日 ㊦ 午後1時30分～3時30分	男女共同参画推進講座 「シェイクスピア講座」 (2日制) 講師 門野 泉氏	9月11日号
11月24日 ㊦ 午後1時30分～3時30分	男女共同参画推進講座 「法律講座 (相続)」 講師 亀井 時子氏	10月21日号
12月1日 ㊦ 午前10時～12時	女性の活躍支援講座 (タイトル未定)	11月1日号
12月6・13日 ㊦ 午前10時～12時	男女共同参画推進講座 「傾聴講座 (初級) (2日制) 講師 別府 明子氏	11月1日号

夫など、パートナーからの暴力に悩んでいませんか？

暴力は犯罪です。ひとりで悩まず、ご相談ください。

東京都の配偶者暴力相談支援センターなどもご紹介いたします。詳しいことは品川区男女共同参画センターへ TEL. 5479-4104

★男女共同参画センターDV専門相談……………毎月第1・3・4・5㊦ 午後1時～4時
 ……………毎月第2㊦ 午後5時30分～8時30分 ※事前予約による面接または電話相談。

☆しながわ見守りホットライン ※24時間つながります。

(DV) TEL. 3777-6601 (児童虐待) TEL. 3772-6622 (高齢者虐待) TEL. 3772-6699 (障害者虐待) TEL. 3772-6605

★国 (内閣府男女共同参画局) の相談窓口「DV相談ナビ」……………TEL. 0570-0-55210 (お近くの相談窓口を自動音声によりご案内)

❶ 緊急のときは (身の危険を感じたら) ……………警察 110番 (事件発生時)

品川区制70周年記念

男女共同参画推進フォーラム2016

入場無料

託児有

手話通訳有

断捨離で輝く自分へ

～踏みだそう!心の整理で 夢の第一歩～

講師

心理療法家・断捨離アンバサダー

川畑 のぶこ氏

聖路加国際病院 精神腫瘍科 非常勤

NPO法人ハートシェアリングネットワーク 理事長



私たちが企画運営しています



日時 11月12日(土) 午後1時30分～3時30分
 会場 品川区立総合区民会館さゆりあん1階 小ホール
 定員 150名(事前申込制・往復はがきにて申込み)
 講師 川畑 のぶこ氏(心理療法家・断捨離アンバサダー)

詳しくはポスター・チラシ、品川区ホームページ、広報「しながわ」10 / 11号をご覧ください。

男女共同参画センターからのお知らせ

女性相談員による相談室

心や、生き方の悩み、
 家庭のことで困っていること、
 また、法律に関することや離婚、金銭トラブルなど、
 お気軽にご相談ください。
 (男性もご利用ください)

※原則、品川区在住の方が対象です

電話相談

カウンセラーによる電話相談

毎月第1・2・3木曜日 午前10時～午後4時

(ただし、木曜日が祝日の場合はお休みとなります)

正午～午後1時前後は休憩時間のため、対応できないことがあります。

終了時間が午後4時ですので、お電話は午後3時30分ごろまでお願いいたします。

専用電話 5479-4105

面接
相談

無料。事前予約が必要です。予約電話 5479-4104

※予約受付時間 平日午前9時～午後5時

	相談時間	8月	9月	10月	11月
弁護士	午後1時～3時30分	3日(水)	7日(水)	5日(水)	2日(水)
	午後1時～3時30分	9日(火)	13日(火)	11日(火)	8日(火)
	午後5時30分～8時	22日(月)	26日(月)	17日(月)	21日(月)
カウンセラー	午後1時～4時	25日(木)	29日(木)	27日(木)	24日(木)
DV相談	午後1時～4時	5・19・26日(金)	2・16・23・30日(金)	7・21・28日(金)	4・18・25日(金)
	午後5時30分～8時30分	12日(金)	9日(金)	14日(金)	11日(金)

※法律相談は、弁護士に法律に関することを
 カウンセリングはカウンセラーにこころと生き方の悩みごとを
 DV相談は、専門相談員にDVに関することを相談できます。

☆交流室や会議室を、男女共同参画の推進を目的とする活動や学習のために、ご利用ください。交流室には資料コーナーが併設されています。

◇交流室 18席(最大): 個人やグループの活動の場としてご利用ください。

◇会議室 36席(最大): 利用する場合は、あらかじめ団体登録が必要です。詳しくは男女共同参画センターにお問い合わせください。

特集記事にご意見・ご感想をお寄せください。お待ちしております。

○次号「マイセルフ 自分らしく」53号は平成28年12月発行予定です

マイセルフ・自分らしく-VOL.52(「しながわの女性」から通算すると82号) 2016年8月発行(年3回発行) 品川区総務部人権啓発課男女共同参画担当

〒140-0011 品川区東大井5-18-1 品川区男女共同参画センター TEL.5479-4104 FAX.5479-4111 Eメール: danjo@city.shinagawa.tokyo.jp

●区内の各図書館、地域センター、文化センターなどで配布しています。 ※古紙を配合した紙を使用しています